

# 水位スクリーニング + 管路水位リスクアセスメント PAT-P

すぐに始められる、不明水対策の入口です。

## 水位スクリーニングから不明水対策へ

水位スクリーニングは迅速かつ経済的な調査手法が必須で、これまで予算的に手をつけられなかった規模にペンタフは対応します。

「管路水位リスクアセスメント」は水位スクリーニングの手法の一つで、もっとも優先順位が高い雨天時浸入水による溢水(内水)リスクの有無を俯瞰的にふるい分けすることができます。

リスク評価後は抽出されたエリアにおいて流量調査や詳細調査をすることで、エリアにコミットした不明水対策を提案いたします。

## 抱えている不明水問題をお聞かせください

- ① **流域負担金の増大**：下水道収入を上回る、負担金の発生
- ② **溢水**：浸水、汚損、公共衛生問題、交通障害、マンホール蓋飛散による人身事故や交通障害
- ③ **漏水**：土壌、地下水汚染
- ④ **過負荷**：運転・維持管理経費増大、処理水質の悪化、公共用水域汚染
- ⑤ **水密性不良箇所からの浸入水に伴う土砂流出**：空洞化、道路陥没、地山の弱体化による不陸蛇行、不陸や接続不良発生による管路施設の短命化

## 水位スクリーニング

### 浸入水対策には、水位スクリーニング調査が効果的です

ペンタフでは圧力チップ(タフレベルC)を用いた水位スクリーニング調査を提案します。

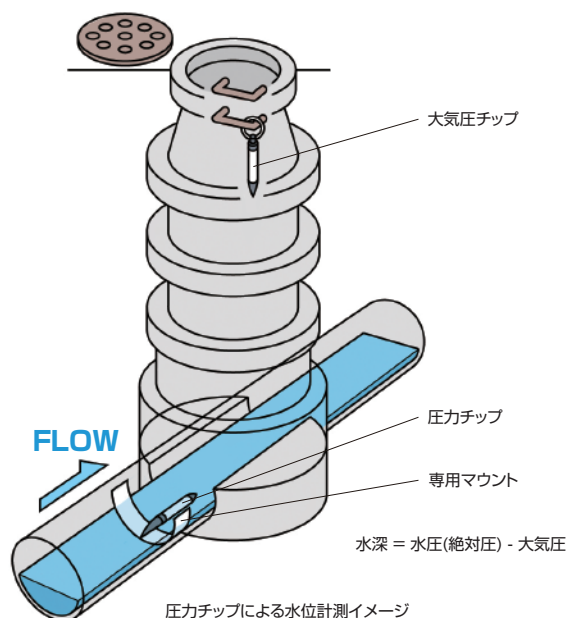
水位スクリーニングは次のような事をお考えの方に効果的です。

- 雨天時浸入水調査を実施したいが、どんな調査をすればいいのかわからない
- 不明水対策の調査は広範囲に展開すると多大な費用がかかるのでは
- 大雨時にマンホール内の水位状況、溢水状況を把握したい

下水道管路施設の調査会社として、30年の実績から最適な不明水対策調査をご提案します。



圧力チップ(タフレベルC)溢水対応



### 調査方法

- 圧力チップを管底に仮設し、大気圧チップと雨量トランスミッタ(タフネット)を配置して、管内流下水位と雨量を1分単位で計測します
- 圧力チップは調査系統・路線ごとの複数個所に、合わせて数十～数百箇所仮設します
- 大気圧チップと雨量トランスミッタは、5km圏に1箇所程度仮設します
- 大気圧チップは人孔内の水が被らない高さに配置し、溢水の恐れがある人孔では地上部にも配置します

